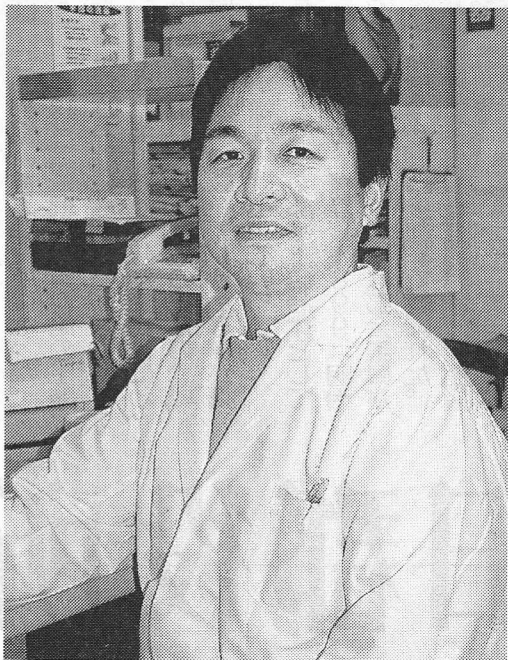


わたしとおかあさん

AMDA県支部長 江口貴博さん



えぐち・たかひろ 1965年、徳島県阿南市生まれ。徳島大医学部卒。非常勤の脳外科医として複数の病院に勤め、自由な時間をボランティア活動に充てている。07年9月から国際医療援助団体「AMDA」県支部長。阪神大震災で海外から受けた支援の恩返しとして、ネパール子ども病院（ネパール西部プトワル市）を支援している。

産に野口英世の姿をかたどった貯金箱を買い、自宅の神棚に飾って毎日拝んでいました。

によく行きます。こうしたボランティア活動にのめり込んだのは母の影響かもしれません。

口癖のように「人のためになれ」

私は4人兄弟の三男です。母は破れた靴下やズボンを縫ったり、食事を用意したり、多くの家事をこなしていました。男ばかりの家庭で大変そうに思えますが、慣れていたのか、あっけらかんとしていたのを覚えていません。

踏むと、つまようじで私の脚を刺し、右手の甲にもぐさを置いて焼きましました。印刷物を大切にしないと怒るんです。母はなだめ役でしたが、私には「お父さんほど教育熱心

な人はいないから、ちゃんと感謝しなさい」と言い聞かせていました。

母も教育熱心で、口癖のように「人のためになれ」とも話していました。家族旅行で野口英世記念館（福島県猪苗代町）に連れて行かれたこともあります。母はお土

「誰にでも同じように接しなさい」とも教わりました。私は医学部の学生時代、無料検診を実施するため無医村に出かけていました。今は国際医療支援のためにネパール

一方、父は厳しい男です。うっかり新聞や本を

いとお父さんほど教育熱心

とあります。母はお土

【聞き手・四谷寛】